

明科駅周辺まちあるき
空き家・空き店舗見学会



空き家物件の見学やマッチングとともにガイドが明科の歴史や文化などを案内します。

- 日時 2月25日(土)
申し込み 申込用紙を直接または電話で
その他 集合時間や行程など詳細は、申込者へお知らせします。



今年度3回目の開催となった11月12日(土)には、市内外からの参加者と関係者20人が参加し、リフォーム中の物件など5軒の物件を見学し、まちあるきを楽しみました。

参加者からは、「実際に目で見ることができ、実態がよくわかった。また、同時にまちの歴史を知ることができて、明科という地域に興味を持った」という声が聞かれました。

現在、明科駅周辺では見学会を通じ入居が決まった賃貸物件が3軒となり、空き家を活用したまちの再生につながっています。

活用を希望したい場合は？

空き家活用でチャレンジしたいこと、熱い思いをお寄せ下さい。借主の希望と貸主の気持ちが人のつながりや交流を生むマッチングです。登録は無料。随時受付中です。

空き家を活用したい人のニーズ
利用手順



- ①市へ登録票を提出
- ②市HPや所有者等へ情報を提供
- ③所有者等は、登録票の情報を確認し、利用してほしい人を市へ報告。
- ④報告をもとに、市が空き家を活用したい人へ連絡
- ⑤空き家を活用したい人から、所有者へ連絡
- ⑥契約交渉・市や専門家などによるサポート
- ⑦契約

マッチング!!

Interview

活用希望者 飯島 三香さん
所有者 大倉 宗一郎さん

市の登録票を利用し、大倉宗一郎さん(27)が所有する三郷小倉の築約40年の物件と出会い、住居と併設した倉庫をリフォームし、菓子工房を営む神奈川県出身の飯島三香さん(51)。大倉さんと飯島さん2人に話を聞きました。

飯島さんは、神奈川県でパティシエとして働きながら、趣味のサーフィンを楽しんでいました。その頃から長野県の食材が好きで何度か訪れているうちにいつか長野県に住み、独立したいと考えるようになりまして。まずは、軽井沢で信州暮らしをスタート。軽井沢で暮らしながら安曇野を訪れた時に見た光橋からの景色が忘れられず、安曇野に住みながら菓子作りをしたいと思うようになりました。



独立するために一軒家に住もうと市への相談や、明科駅周辺まちあるきに参加しているうちに登録票の存在を知り、本年1月に早速登録。登録してまもなく、この物件に出会い、



三郷小倉の菓子工房「Studio Sambo」で 飯島さん(左)と大倉さん(右)

所有者の方必見!!

空き家の利活用を希望している方を紹介しています



活用ニーズ登録票

現在、空き家活用を希望する市への登録件数は40件を超えました。移住希望者が住宅や創業スペースとして活動希望者が多数

空家は家族との思い出がつまった大切な場所でもありません。活用する人にも大切に使用してもらいたい。大切な空き家を活用して、夢や希望を叶えたいと思っている人を応援できたら。そんな所有者と利用者のマッチングから生まれる交流で思いが受け継がれ、新たな価値として活かされることが、持続可能な地域社会につながっていきます。

所有者の思い出 利用者の夢

空き家を活用 夢と希望を応援!
持続可能な地域づくりへ。 円移住定住推進課 TEL71-2011



大倉さんが栽培するリンゴを菓子の材料に使用するという交流も生まれており、飯島さんは「山に近い所での一軒家暮らしははじめてで、リフォームは大変ですが、移住者を受け入れてくれるウエルカムな環境で、菓子作りもしやすいです。冬は寒いけど冷蔵庫いらずですね」と笑います。

早期決断が課題解決のカギ

市内の空き家1086戸(令和3年12月末)のうち、844戸は、建物本体に大きな劣化がなく、利活用可能な地域の資源となり得る物件です。一方で、利用しない空き家を所有することは、管理不全による環境や景観への悪影響、安全面のリスクなどのデメリットが考えられます。さらに所有が長期化するほど、費用面での負担増や相続問題などの課題により解決が難しくなっています。所有者の早い決断と空き家活用チャレンジへの応援が拡げれば、資源の有効活用となり、持続可能な地域づくりへの大きな一歩となります。

市では、空き家所有者の不安と活用希望者のニーズをマッチングすることを目的に、空き家活用希望者の情報を記入した登録票を作り、窓口や市HPで公開しています。次ページではマッチング事例のインタビューと共に市の取り組みを紹介します。